四季報　秋号
芹沢文学研究会・会報
第百三十五号（No.135）
令和7(2025)年10月30日(木)刊行

◎芹沢光治良記念文化財団

長編小説『狭き門より』が小学館より10月9日に再版されました。B6判　374頁　定価880円(税込)
日本女性を主人公にした作品には、夫に生きた若子の『愛と死の書』、子に生きた俳子の『可里に死す』、自己に生きた美子の『狭き門より』があり、三部作と言えます。『狭き門より』は、他の二作と異なり、明るく幸福な結婚をむかえます。作者自身も繁き後間を持ったが、「自己に生きる者は、境遇がどうあれ幸福である」という象徴として納得したとのこと。会員の皆様も美子のように自分探しをしてみませんか？『狭き門より』の出版を記念して、12月14日に、マグノリアで講演会を計画しています。詳しくはHPにアップします。講演会までに一読ねがいます。皆様にお声をおかけ下さい。

月秋の歌Ⅱ

コスモスが
あちこちに咲き
やっと秋…

地球温暖化
いかに止むるや

仙台市　芹沢光治良

☆沼津市芹沢光治良記念館

企画展　光治良の戦争と平和 ―サヶ谷イの実直―
期間　令和7年6月13日(金)～11月30日(日)　休館日　月曜日、休日の翌日、年末年始（12月29日～1月3日）。図録も発行（令和7年6月13日）
沼津の文豪三者の軌跡をたどるバスツアー　10月17日(金)
集合場所　8時30分に JR沼津駅北口のロータリー　定員20名
参加料　500円　雨天決行。　＊既にこのバスツアーは過ぎています。

◎芹沢光治良文学愛好会の会報　通信 No.548

芹沢光治良文学愛好会の例会、東中野区民活動センターの調理室（1階）で。
9月23日(火)　秋分の日 11:00～18:00に読書会　テキスト　自選「広島の叫び」、ルポルタージュ「死の影を見つめて」、戯曲「原爆の娘を救え」。　豊田英文が司会した。
送付資料は、新聞記事「ピカドン慣み　刻んだ「魂の記録」」（令和7(2025)年8月28日　東京新聞）、芹沢光治良　自伝「わが青春 25　『夢にまでみた福国』」（昭和60年(1985)年3月30日(土)、でした。　＊テキストが多過ぎますね。

◎芹沢文学愛読者の会　短信　第2538号　10月3日発行

第248回　名古屋芹沢文学読書会の案内　10月9日(日)午後1:30～4:30
会場　名古屋市農協図書館内集会室（2階）　内容　『神の試験』第3章
特別講師　鈴木吉雄先生　名古屋市守山区本地が丘
自伝抄『捨て犬か雑草のように』　第7回「人の情と好成績が救い（つづき）」

☆芹沢光治良と新潮社　芹沢文学作品を中心的に出版

新潮社は、芹沢光治良の作品を多数出版して来ました。多くの長編小説や随筆集などを出版し、大河小説『人間の運命』も、全14巻で刊行しました。これは新潮文庫『人間の運命』（全七冊）としても出版されました。『人間の運命』の終章『遠さかった明日』や、序章『海に鳴る魂』も『芹沢光治良作品集』（全16巻の巻7）に書き下ろしとして収録して出版しました。
新潮社発行の単行本としては、『命ある日々』『愛と知と悲しみと』、『われに背くとも』、『死の扉の前で』等が刊行されています。晩年の連作『神の微笑』『神の試愛』『神の試問』『人間の幸福』『人間の生命』『大自然』『天の調べ』を出版し、没後に『芹沢光治良文学館』（全12巻）も刊行しました。
＊全集は無理かも知れませんが、今後も芹沢文学を出版して下さい。

◎問対資料／①短編小説『櫻の散る頃』　芹沢光治良　昭和11(1936年6月1日　桑林書房発行の雑誌(金魚)に掲載。144ページ目。（資料提供 中村輝子）
②文学評論　連載「芹沢文学講話」④　戦後長編小説『閉ざされた部』　戦後の不満と戦争未亡人の生き様 ＝　芹沢文学研究会　代表　小串信止
（駅資料からの便りが届きました。）

連載 ◆ 会員だより　No.69

「神の書」を読む

青木 秀夫　静岡県富士宮市

静岡県富士宮市、富士山の麓で病気を治す医者をしています。十九歳の夏に『人間の運命』を読んで医者になって社会の役に立とうと決心しました。芹沢光治良先生の『神の試問』が出版された翌年、神の意思に沿うような医療はあるのだろうかと二週間の断食修行をしました。神の三部作と聖書、『教祖様』などの参考書をよく読んで、読んでは断食を繰り返しました。七日目の明け方でした、医者のままで病気を治せるということでした。
それからは現代医療を離れて病気が治ったという治療法を研究し、今日の波動療法を発得しました。がんや難病まで多くの病気が治るようになりました。
この波動療法を知り、軽井沢の山荘で芹沢先生にお会いできる幸運がありました。先生最後の山荘で、『天の調べ』を執筆中でした。「立派な方です」と理由もなく褒めてくださいました。医療の方向は間違っていないと確信できました。
「風書」という言葉がありますが、芹沢文学は、人生の使命を自覚させ、富士山麓の芝川に開業してから、人生体験を話すと「神の書」です。感じたいという人たちが集まり芝川読書会が始まりました。月に一回の開催で、「神シリーズ」は3回も繰り返し読みました。今年の二月にコロナ禍でも中断することなく、二〇〇回記念を迎えました。現在は『人間の運命』を読んでいます。『人間の運命』には神の意思がちりばめられています。それを感じては喜び、感激が治す医療の支えになっているのです。

◎資料紹介　短編集『西欧物語』　昭和二十二年五月五日　プレップス社　発行

芹沢光治良の西欧体験で書かれた短編小説を二冊にして出版したものです。『ブルジョア』は、パリに遊学し結核闘病をした出世作です。一等に当選して昭和5年4月号の雑誌(改造)に掲載されました。短編小説『鼠』は昭和6年8月号の雑誌(改造)に発表したものです。イタリアの独裁者ムッソリーニが創った国家ファシスト党に反対する青年達のことを書いたものです。黒は黒服の男達のことで、シルバンがムッソリーニ暗殺を謀ったが、思い直してパリに帰るという作品。短編小説『白い子犬と鼠色』は、スイスでの結核闘病の体験で白い子犬と鼠色の夢のことを書いた作品。短編小説『聖女像』は、昭和7年9月に雑誌(新潮)に発表した作品で、長編小説『明日を遠って』の結編の一つです。　古書店でも見つからない短編集ですが。

『西欧物語』の表紙

☆年会費が未納の方は、納入をお願いします。

今年度も年会費を1800円に据置きました。年会費の納入をお願いいたします。自主的な寄付も受入れます。
どうか、よろしくお願いします。

◎新入会員の紹介　その後入会者し　▽新入会員をお誘い下さい。

……☆ 編集後記 ★……　編集責任　小串信正……

芹沢文学研究会の会報 第135号と問対資料をお届けいたします。短編小説『櫻の散る頃』は、夫の結核闘病を理解しない妻不破一枝夫人のことを批判的に書いたもので、異色の作品と言えます。掲載した東邦医学雑誌(東邦)も珍しいものです。中村輝子さんが探し出して提供してくれたものです。
秋の節句が過ぎて、朝夕は涼しくなりましたが、昼はまだまだ夏日が続いています。台風22・23号は変なコースで日本に近づき、伊豆七島には強風や大雨があったようです。今年の夏の猛暑は、記録的な高温で長期に亘って大変でした。
ノーベル賞では、医学生理学賞で化学賞に日本人の学者が選ばれて話題となりました。詩りに返います。日本の教育費や研究費は、余りに少ないと思います。
世界各地の侵略や戦争は長く続き、多くの犠牲者を出しています。ロシアのプーチンやイスラエルのネタニヤフ等の独裁者は、人間的に許されません……。
読書の秋です。芹沢文学を、平穏に堪能して過ごしたいものです。